

F-7 デルファイ法による未来生活の予測 (オズ報) とのこ

○ 武田 俊子, 宇川 和子 (日本世大) 斎藤 道香 (学習院短大) (八度 雄一郎) 他4名

この報告は, 住居・被服・児童・教育・家族生活等の分野についてこの各々の課題のうち, 特に目立つものについて述べる。調査項目は45, 回答者数は186名である。

結果

- I. 住居関係: 課題の重要度については, ①生活用の熱源として太陽エネルギー
②大都市における緑地地域の問題が共に50%以上が非常に大であるとするのに比し
③住宅の向仕切りの移動可能 ④生活様式の洋風化 ⑤高層住宅志向 ⑥住宅が素人でも組立可能, の問題は重要視されてはいない。実現可能性に関して2項目を除きあとは, 住居専門家は1位の高率で可能性を支持しているのが特徴である。
- II. 被服関係: 課題の重要性は他分野の課題に比して総じて高くない。実現可能性の高いものは, ①不織布の実用化 ②洗濯物の乾燥機の一般化——これについて住居の専門家は100%の支持を示している。③日常着・礼服の区別がなくなることにについては否定的で支持率は大衆低い。
- III. 児童・教育・家族生活関係: 各個人的能力に関しての, ①学校教育制度 ②進学職業の適性 ③性別の差については ①約半数は現在の学校制度の枠組を堅く支持して消極的態度であり, ②55%は適性の判定が可能となる。③實力主義で男女差がなくなる可能性は55%であり, 共働き男女の稼得がほぼ対等となるのは66%と高くなる。その他家庭生活体験を重視する傾向を支持する率は, 当然ながら高いが, 家庭内の子どもの有無に関する課題に対しては, 全体的に支持率は低い。